

第 140 回運輸政策コロキウム～ワシントンレポートⅧ～ オンライン開催のご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび運輸総合研究所におきましては、「第 140 回運輸政策コロキウム～ワシントンレポートⅧ～」をオンラインにて開催することとなりました。

つきましては、ご関心をお持ちの皆様におかれましては、ご参加を賜りますようご案内申し上げます。また、ご関心をお持ちの方々に広くご周知頂ければ幸いです。

ご参加に当たりましては、大変恐縮ですが、申込み専用 URL からお申込み頂きますようお願い申し上げます。

敬具

記

○第 140 回運輸政策コロキウム～ワシントンレポートⅧ～

日 時：2021年1月27日（水）10：00～12：00

会 場：オンライン（Zoom ウェビナー）
（※後日、収録映像の公開は行いません。）

テ ー マ：米国における「空飛ぶクルマ(Urban Air Mobility)」の実現に向けた取り組み

1. 講演およびコメント

講 師：藤巻 吉博 ワシントン国際問題研究所主任研究員

コメンテータ：鈴木 真二 東京大学未来ビジョン研究センター 特任教授

2. 質疑応答

モデレータ：山内 弘隆 運輸総合研究所所長

参加費：無料

お申込み：下記の URL よりお申し込みください

<https://krs.bz/jterc/m/collo140>

（申込期限：1月22日（金）まで）

※お申し込み頂いた方には、1月26日（火）に視聴用 URL をご送付いたします。



概要 :

米国における「空飛ぶクルマ (Urban Air Mobility)」の実現に向けた取り組み

商用利用が拡大しているドローン (無人のマルチコプター) に続き、「空飛ぶクルマ (Urban Air Mobility)」の実現に向けた開発や環境整備が各国で進みつつある。本コロキウムでは、「空飛ぶクルマ (UAM)」が実現するメリット、実現に向けた課題 (安全性、セキュリティ、社会的受容性等)、課題に対する取り組み、ベンチャー系企業などにおける開発の状況、そして早期の実現に向けたプロセスについて、藤巻主任研究員より米国の状況を中心に紹介する。その後、ドローンを始めとする航空のイノベーション技術に関する専門家である、東京大学の鈴木特任教授をコメンテータに迎えて議論を行い、「空飛ぶクルマ」を取り巻く課題や今後の動向について明らかにする。

講師 藤巻 吉博 ワシントン国際問題研究所主任研究員

2001年に東京大学工学部航空宇宙工学科を卒業、2003年に東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻を修了し、同年に国土交通省に入省。入省後は、航空局を中心として、総合政策局及び自動車交通局においても勤務。航空局では、日本の航空会社が世界に先駆けてボーイング787を導入することに伴い、その安全・環境基準に対する審査を実施したほか、2013年1月に発生した同機のバッテリー発火問題の際には、約2か月にわたり米国連邦航空局 (FAA) のシアトル事務所に派遣され、同事務所にてJCABからのリエゾンとして勤務。また、2013年から2019年までの6年間、国際民間航空機関 (ICAO) の航空環境保全委員会 (CAEP) の騒音ワーキンググループ (WG1) に航空局の専門家として参加。



2020年4月より、運輸総合研究所にて、航空の技術分野 (特に安全・環境基準、証明プロセス、超音速機やドローン等の次世代航空機) に関する調査研究に従事している。

コメンテータ 鈴木 真二 東京大学未来ビジョン研究センター 特任教授

1977年東京大学工学部航空学科卒業、1979年同大学院工学系研究科修士課程修了。(株)豊田中央研究所を経て、1986年東京大学工学博士取得、同工学部助教授。1992年Purdue大学客員研究員を経て、1996年東京大学大学院教授。2019年現職および東京大学名誉教授。専門は航空機力学、航空イノベーション。(一社)日本航空宇宙学会会長 (第43期)、(一社)日本機械学会副会長 (第95期)、International Council of Aeronautical Sciences (ICAS) 会長 (2019-20)、(一社)日本UAS産業振興協議会理事長 (2014~)、(一社)航空イノベーション推進協議会代表理事 (2018~)、福島ロボットテストフィールド所長 (非常勤) (2019~)、日本学術会議連携会員 (2014~) など。主な著書、『落ちない飛行機への挑戦: 航空機事故ゼロの未来へ』(化学同人、2014)、『飛行機物語—航空技術の歴史』(筑摩書房、2012)

